

2023年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
------	-----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	主 題	内 容	学習方法
1	質点の力学-体位変換の原理	速度・加速度・ニュートンの法則・力学的エネルギー・摩擦力	講義
2	剛体の力学	トルク(看護の場でのトルク)・釣り合い・重心と安定性	講義
3	圧力	気圧・血圧・サイフォン・酸素ボンベ・低圧持続吸引	講義
4	電気	電気の基本・感電	講義
5	熱現象	熱膨張・比熱と潜熱・熱と仕事・熱の移動と保温	講義
6	音	音波・音の強さと大きさ・ドップラー効果・超音波	講義
7	光	光の性質・全反射・レンズと眼鏡・紫外線・赤外線	講義
8	まとめ・終講試験/解答・解説		講義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 基礎分野「物理学」 医学書院
参考書	
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目				☐
	1	2	3	4					
	●	●		●					
科目名	情報科学				担当講師	池田靖雄			
分 野	基礎		授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位		時 間	30 時間	学 年	1 年次	学 期	前期	
概 要	現代の「情報」とはとても便利なもので、ますます身近なものになってきている。しかし他方では、個人情報流出したというニュースも聞かれる。便利なものとはいえ、思わぬところにリスクも抱えている両刃の剣なのである。したがって、「情報とは何か」を知り、その「活かし方」と「まもり方」の両方を学ぶ必要がある。本科目では、コンピュータの基本的な操作から、文献検索の方法、医療の現場での情報、そして個人情報を守るために必要な倫理を学ぶ。								
到達目標	1. 情報科学について、現代社会や生活とのかかわりの中で理解する。 2. 情報処理の目的を理解し、各ソフトを利用した情報処理の知識と技術を習得する。 3. 医療情報とそのシステムを理解する。 4. 病院情報におけるシステムを理解する。 5. 看護の対象である患者および家族の情報をめぐる倫理的問題を理解する。								

回	主 題	内 容	学習方法
1	情報とは	情報の概念	講義
2	情報化社会とは	ICT(情報通信技術)の活用	講義
3	保健医療福祉における情報(1)	保健医療福祉のネットワークと情報システム	講義
4	保健医療福祉における情報(2)	医療情報における情報システム	講義
5	医療の情報に関する倫理(1)	医療倫理の原則と倫理的問題、守秘義務	講義
6	医療の情報に関する倫理(2)	個人情報の保護、患者の権利	講義
7	研究と情報システム(1)	文献とは、文献検索方法	講義
8	研究と情報システム(2)	文献検索の実際	講義・演習
9	基本操作(1)	Word①	講義・演習
10	基本操作(2)	Word②	講義・演習
11	基本操作(3)	Excel①	講義・演習
12	基本操作(4)	Excel②	講義・演習
13	基本操作(5)	PowerPoint①	講義・演習
14	基本操作(6)	PowerPoint②	講義・演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 別巻「看護情報学」 医学書院
参考書	
備 考	講義ではパソコンを使います。各自準備してください。 パソコンの基礎（word、Exel）は各自で確認しておきましょう。

2023年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー					実務経験のある教員等による授業科目	☐	
	1	2	3	4				
	●	●		●				
科目名	英語				担当講師	君塚葉子		
分 野	基礎		授業方法	講義	実務経験			
単位数	1 単位		時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	近年わが国も国際化が進んだことで、東京や大阪など大都市圏だけでなく地方都市でも多くの外国人が居住するようになり、病院でも英語で対応しなければならない場面が増えてきた。日常会話はもちろん、病気や医療用語を理解できるレベルの英会話が必要とされている。本科目では、高等学校でのオーラルコミュニケーションの学習をもとに、場面別の病院の中のエピソードを学ぶことを通して、看護に必要な医学専門用語を用いた英文の読解力を高め、患者との基本的会話・場面別の会話表現を学ぶ。							
到達目標	1. 看護に役立つ医療用語を理解する。 2. 海外文献の読み方を理解する。 3. 医療・看護場面における日常英会話を理解する。 4. コミュニケーション手段としての基礎的な英会話能力を身につける。							

回	主 題	内 容	学習方法
1	テキスト Unit3 (1)	Let's Ask about Mr.Brown's Daily Activities	講義・演習
2	テキスト Unit3 (2)	Let's Ask about Mr.Brown's Daily Activities	講義・演習
3	テキスト Unit4 (1)	Mr.Brown's Symptoms	講義・演習
4	テキスト Unit4 (2)	Mr.Brown's Symptoms	講義・演習
5	テキスト Unit5 (1)	Medical Checkup 1	講義・演習
6	テキスト Unit5 (2)	Medical Checkup 1	講義・演習
7	テキスト Unit6 (1)	Medical Checkup 2	講義・演習
8	テキスト Unit6 (2)	Medical Checkup 2	講義・演習
9	テキスト Unit8	Mr.Anderson's Symptoms	講義・演習
10	テキスト Unit9 (1)	Let's Ask More about Mr.Anderson's Symptoms	講義・演習
11	テキスト Unit9 (2)	Let's Ask More about Mr.Anderson's Symptoms	講義・演習
12	テキスト Unit12(1)	Mrs. Johnson Feels Dizzy	講義・演習
13	テキスト Unit12(2)	Mrs. Johnson Feels Dizzy	講義・演習
14	テキスト Unit13	An MRI Test	講義・演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講義

評価方法	客観試験
教科書	First Aid! English for Nursing 金星堂
参考書	必要に応じてプリント配布
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目	☐
	1	2	3	4		
	●	●		●		
科目名	論理と表現				担当講師	渡邊洋子
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1 年次	学 期 前期
概 要	現代の若者の傾向として、自分の考えを論理的に組み立てられず、また、文章として表現する力の低下が挙げられる。論理的な思考は、看護の実践に必要な科学的な裏付けを考える上で不可欠の要素であり、看護を実践する上で、対象の考えを理解し自分の考えを表現するためにも必要な思考である。とくに、看護記録や実習レポートは、情報の共有化を図るとともに論理的思考を深めたり表現方法を工夫する上で重要な役割を果たしている。本科目では、看護における論理の重要性を認識し、論理的で正確、明瞭な言語の使い方を実践する能力を養うとともに、クリティカルシンキングのスキル・態度を習得し、思考の合理性を評価する力を養う。					
到達目標	1. 看護における論理の重要性を認識し、論理的な思考力を養う。 2. 論理的で正確、明瞭な表現方法を習得する。 3. クリティカルシンキングのスキル・態度を習得する。					

回	主 題	内 容	学習方法
1	オリエンテーション	論理とは何か	講義
2	看護における論理の重要性	看護師の学習と批判的思考態度における特徴	講義
3	論理的表現方法(1)	正確、明瞭な話し方	講義・演習
4	論理的表現方法(2)	正確明瞭な書き方	講義・演習
5	文章の接続表現(1)	論証・付加・説明・逆説・限定・対比の関係	講義・演習
6	文章の接続表現(2)	接続表現が示す論の流れやまとめ、論の軽重	講義・演習
7	形式論理Ⅰ	概念・判断	講義・演習
8	形式論理Ⅱ	推理・日常言語における問題点	講義・演習
9	クリティカルシンキングの基本(1)	推論の分析	講義・演習
10	クリティカルシンキングの基本(2)	推論の評価	講義・演習
11	クリティカルシンキングの基本(3)	合意の理解	講義・演習
12	クリティカルシンキングの基本(4)	明確で厳密な言語の使用	講義・演習
13	クリティカルシンキングの応用(1)	論理的・正確・明瞭に表現する	講義・演習
14	クリティカルシンキングの応用(2)	自他の主張を評価し合い、主張を再構築する	講義・演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講義

評価方法	客観試験
教科書	講義の中で提示する
参考書	必要に応じてプリント配布
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
------	-----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	主題	内 容	学習方法
1	心理学の発展	心理学とは、心理学と人間行動、心理学の歴史	講義
2	知覚の心理	五感、知覚と錯覚	講義・演習
3	記憶の心理	記憶と思考、忘却	講義・演習
4	思考・創造・言語の心理	思考作用、思考力の発達、創造性	講義
5	知能の心理	知能の心理と知能検査	講義
6	学習の心理	学習理論、影響する条件、練習の心理	講義
7	感情・情緒・情操の心理	感情・情緒・情操の心理	講義
8	適応の心理 人と環境、適応・不適応、適応の機制	人と環境、適応・不適応、適応の機制	講義
9	性格の心理	性格の心理と性格検査	講義・演習
10	集団の心理 集団の形成と機能、集団行動	集団の形成と機能、集団行動	講義・演習
11	発達の心理(1)	エリクソンの発達課題	講義
12	発達の心理(2)	各発達段階の特徴	講義
13	カウンセリング	カウンセリングの意義・方法	講義
14	医療と心理学	患者の心理	講義
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 基礎分野 「心理学」 医学書院
参考書	
備考	

2023年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー								
	1	2	3	4					
	●			●					
					実務経験のある教員等による授業科目				☐
科目名	哲学				担当講師	宮内寿子			
分 野	基礎		授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位		時 間	15 時間	学 年	2年次	学 期	前期	
概 要	哲学は、世界や人生の究極の根本原理を客観的・理性的に追及する学問であり、一番の特徴は、とことんまで考え抜くという点にあると言える。従って、哲学は私たちが普段の生活において問題とすることのないことを考察することになる。 自然や人間社会の現象に直ちに向かうよりも、人間とのかかわりあいの探求に向かう、自分自身の経験などから作り上げた人生観・世界観、物事に対する基本的な考え方を追求していくことである。								
到達目標	1. 哲学とはなにか述べられる 2. 哲学の思考方法を体験することができる 3. 多元的な思考ができる 4. 自分の見解をまとめ、他者に伝えることができる								

回	主題	内 容	学習方法
1	哲学とは何か	哲学を学ぶ意義	講義
2	生きる意味ってなんだろう（1）	生きる意味を事例から考える	講義・演習
3	生きる意味ってなんだろう（2）	生きる意味を事例から考える	講義・演習
4	言葉ってなんだろう（1）	言葉の意味を考える	講義・演習
5	言葉ってなんだろう（2）	言葉の意味を考える	講義・演習
6	時間ってなんだろう	時間の意味を考える	講義・演習
7	愛ってなんだろう	様々な愛の意味を考える	講義・演習
8	まとめ・終講試験/解答・解説		講義

評価方法	客観試験
教科書	吉野源三郎『君たちはどう生きるか』 岩波文庫
参考書	
備考	事例を用いて各主題を考え、グループワークやディベートを実施する。各自の考え方を否定せず、様々な考え方や思いを受け入れ学習を進める。

2023年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー							
	1	2	3	4				
	●			●				
					実務経験のある教員等による授業科目			☐
科目名	教育学				担当講師	渡邊洋子		
分 野	基礎		授業方法	講義	実務経験			
単位数	1 単位		時 間	15 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	人間の生成過程の影響因子には、自然環境や文化環境、人間環境がある。その環境に適応していく営みが学習である。学習の質が人間の判断や行動に与える影響は大きい。看護学では、人間の受胎から死までの全生涯にわたる各期を発達する存在ととらえ、生涯にわたる健康教育や保健指導が行われている。本科目では、教育が目指す人間育成のための基礎知識を看護援助における教育に活かす足がかりにした。							
到達目標	1. 人間の成長に教育がどのように作用して人間形成されるのか、教育の意義を理解する。 2. 学習と生活の結びつきについて理解し、看護援助における教育の特質を理解する。 3. 社会の発展が教育の状況をどのように変化させ、人間の発達に影響を与えているか考える。 4. 生涯各期の自主的な学習の特質を理解する。 5. 教育の目的・目標・評価を理解する。							

回	主 題	内 容	学習方法
1	教育の意義	教育とは何か 教育の機能	講義
2	家庭教育 発達と教育	家庭と教育 子どもの成長発達と教育	講義
3	生涯学習支援の社会教育	生涯教育・生涯学習社会・社会教育	講義
4	教育の目的 教育の方法・技法	教育目的の考え方 対象理解・教育相談	講義・演習
5	教育評価	教育評価の意義と目的・方法・到達度評価・自己評価	講義・演習
6	現代教育の諸問題 特別支援教育	現代教育の諸問題 障害児への教育・支援	講義
7	看護と教育	看護基礎教育・卒後教育 患者教育 健康教育	講義・演習
8	まとめ・終講試験/解答・解説		講義

評価方法	客観試験
教科書	看護学生のための教育学―自己の再発見のために― 金芳堂
参考書	
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー					実務経験のある教員等による授業科目			☐
	1	2	3	4					
	●			●					
科目名	倫理学				担当講師	三羽恵梨子			
分 野	基礎		授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位		時 間	15 時間	学 年	1年次	学 期	後期	
概 要	看護プロフェッションとしては、病気や健康に関する知識や技術を習得するだけでなく、医療実践を倫理的に行う能力が求められます。本授業では、臨床における倫理的問題を的確にとらえ、適切に対処できるようになるための基礎として、バイオエシックスの知識を学びます。バイオエシックスは過去の非倫理的な医療実践への反省や技術進歩による新たな課題への直面により発展してきた新しい学問です。臨床で直面する倫理的問題は、日々刷新されており、唯一の答えのないものが大半です。倫理的な実践のためには、自身がルールを正しく守るだけでなく、容易に答えの出ない問題について医療チーム内において意見の異なる他者対話し、合意形成を行う必要が生じてきます。毎回スモールグループ・ディスカッション（SGT）を行うことで、対話を通じて倫理的問題に対する多角的理解を深めます。最終的には、具体的な事例分析を体験することで、それまでの授業の知識を臨床実践に活かす総合的な力を培います。								
到達目標	1. バイオエシックスと医療倫理に関する基本的な概念や用語を理解し、説明できる。 2. 現代のヘルスケアにおいて生じている倫理的問題について理解し、説明できる。 3. ヘルスケアにおける倫理的問題を複数異なった視点から考えることができる。 4. 倫理的問題について自分で考え、意見の異なる他者と対話し、創造的な解決を模索できる。								

回	主題	内 容	学習方法
1	なぜ倫理について学ぶのか 倫理とは 道徳とは 規範とは 価値とは	倫理とは 道徳とは 規範とは 価値とは	講義
2	倫理理論	功利主義・義務論・徳倫理学	講義・演習
3	自律尊重とインフォームド・コンセント	自立尊厳原則	講義・演習
4	正義と社会の問題	正義原則・無危害原則・善行原則	講義
5	守秘義務	出生をめぐる問題「優性思想」	講義
6	死をめぐる問題	生命倫理「安楽死」「尊厳死」「アドバンス・ケア・プランニング」	講義・演習
7	授業全体のまとめと振り返り	ポスターツアーでの授業内容の復習	講義・演習
8	まとめ・終講試験/解答・解説		講義

評価方法	客観試験 コメントペーパーの提出
教科書	入門・医療倫理Ⅰ〔改訂版〕 勁草書房
参考書	各回の配布資料によって参考文献を示します。また、映画や小説などの情報もできうる限り共有します。
備考	講義を主体としますが、映像教材、映画、新聞記事、あるいは事例などを用いたグループワークを多く取り入れます。ワークは講義で得た知識をもとに、皆さんが自分の力でその回のテーマについて考え、他者と対話する訓練を目的とした時間です。授業各回につき、コメントペーパーの提出を行い、振り返りと知識の定着を図ります。毎回授業の最初に、前回の振り返りを行い、繰り返しの学習による知識の定着を図ります。

2023年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー					実務経験のある教員等による授業科目			☐
	1	2	3	4					
	●		●						
科目名	文化人類学				担当講師	茅根美保			
分 野	基礎		授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位		時 間	15 時間	学 年	2年次	学 期	前期	
概 要	看護師として対象の「その人らしさ」を捉える時、その人らしさの背景にある文化の違いに気づき、「その人らしさ」を支える看護が提供できるよう「文化」の多様性と普遍性を学べる内容とする。さらに、日常や人生において変化が生じる時、人はどのように変化をとらえ、理解し、さらに自らの考え方や行動を変化させるべきかについて考えるきっかけとなるよう講義の中で事例を取り入れ、自らの考えを深めていく。								
到達目標	1. 「文化」とは何か、「異文化」とは何か理解する。 2. 個人を取り巻く社会関係を理解する。 3. 人は人生をどのように生きているか、またそのことが社会の再生産にどのように関わっているかを理解する。 4. 日常生活における宗教の役割を理解する。 5. 人間は健康や病気をどのようにとらえ対処してきたかについて理解する。 6. さまざまな文化における「死」を理解する。								

回	主題	内容	学習方法
1	人間と文化	「文化」の概念 「文化」の多様性と普遍性	講義
2	人と人とのつながり	社会の中の個人	講義
3	人生と時間	人間理解のあり方	講義・演習
4	信仰と世界観	宗教と出産・病気・治療	講義
5	身体・病気・治療(1)	文化と身体観・病気観	講義
6	身体・病気・治療(2)	文化と病気治療・医療人類学	講義
7	人間と死	「死の文化」	講義・演習
8	まとめ・終講試験/解答・解説		講義

評価方法	客観試験
教科書	新版 文化人類学のレッスン フィールドからの出発 学陽書房
参考書	
備 考	講義内では、事例を通し、様々な人々の文化の違いとその人らしさについて考えグループワークや意見交換を行い主体的に自己の考えを深めていきましょう。

2023年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー								
	1	2	3	4					
	●		●						
					実務経験のある教員等による授業科目				☐
科目名	社会学				担当講師	小笠原尚宏			
分 野	基礎		授業方法	講義	実務経験				
単位数	1 単位		時 間	15 時間	学 年	2年次	学 期	後期	
概 要	社会とは、人と人との様々なつながりや結びつきからなるものである。社会学は社会の中で起こる様々な事象の成り立ちやあり方に関する学問である。看護は、社会のなかで生活する人々を対象として行われる関わりである。従って、社会がどのような成り立ちや特性をもっているのか、社会の中で生活する人の健康や健康障害を引き起こす現象とは何かを考える科目としたい。								
到達目標	1. 人間行動の特性とはどのようなものか、社会を構成する社会関係、集団・組織・地位・役割に関する社会的行為について理解する。 2. 他者・集団との社会的関係が健康状態に必要な影響を及ぼすことを理解する。 3. 仕事や職場のどのような特徴が健康に影響を与えるのか理解する。								

回	主題	内容	学習方法
1	社会学とは何か	社会学とは A・CONTと近代化 社会静学と動学	講 義
2	役割と葛藤/第一次社会化	社会的自我 地位一役割 家族と社会化	講 義
3	第二次社会化（感情労働）	第二次社会化（感情労働）/感情管理と感情労働	講 義
4	非組織集団と社会集団	非組織集団 社会集団	講 義
5	情報化・ネット社会/職場・社会全体	情報化・ネット社会/職場・社会全体	講 義
6	性・ジェンダー/健康行動と病気行動	性・ジェンダー/健康行動と病気行動	講 義
7	現代社会における課題と展望	現代社会における課題と展望	講 義
8	まとめ・終講試験/解答・解説		講 義

評価方法	客観試験
教科書	大学生のための社会学入門 晃洋書房
参考書	
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー									
	1	2	3	4						
	●		●							
実務経験のある教員等による授業科目										☐
科目名	人間関係論				担当講師	富田悠香				
分 野	基礎		授業方法	講義	実務経験					
単位数	1 単位		時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期		
概 要	看護とは人間関係を基盤として展開される援助過程である。看護師には、人間関係と援助者である自分自身の理解、さらに援助関係を通じた人間的成長が求められる。本科目では、人間関係づくりの基礎的知識を理解するとともに、体験学習をととして人間関係を構築するための前提となる自己理解を深めることをねらいとする。									
到達目標	1. コミュニケーションの基礎を理解する。 2. 自分自身のコミュニケーション及び対人関係の傾向について気づき、今後の課題を明らかにする。									

回	主 題	内 容	学習方法
1	人間関係における自己と他者	人間存在と人間関係	講義
2	対人関係と役割	人間関係における社会的相互作用と社会的役割	講義
3	コミュニケーション（1）	コミュニケーション技法	講義・演習
4	コミュニケーション（2）	交流分析、アサーション	講義
5	コミュニケーション（3）	交流分析、アサーション	講義・演習
6	カウンセリング（1）	カウンセリングの原理と理論	講義
7	カウンセリング（2）	カウンセリングの原理と理論	講義・演習
8	カウンセリング（3）	人間関係を築く面接技法	講義
9	カウンセリング（4）	カウンセリングの技法	講義・演習
10	カウンセリング（5）	看護におけるコミュニケーション	講義・演習
11	保健医療における人間関係（1）	保険医療チームの人間関係	講義
12	保健医療における人間関係（2）	患者を支える人間関係	講義・演習
13	保健医療における人間関係（3）	家族を含めた人間関係	講義・演習
14	保健医療における人間関係（4）	地域をつくる人間関係	講義・演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 基礎分野「人間関係論」 医学書院
参考書	
備考	

2023年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
------	-----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	主 題	内 容	学習方法
1	家族とは	基本概念・類型・家族の変貌	講義
2	夫と妻のパートナーシップ	夫婦関係	講義
3	親と子と孫の絆	親子関係論	講義
4	家族と社会	生活文化・地域・職場	講義
5	患者家族と在宅ケア	患者家族と在宅ケア	講義
6	家族支援のアプローチ	家族システム論・家族発達段階論	講義
7	家族支援のアプローチ	家族への心理教育的方法・心理援助の方法	講義
8	まとめ・終講試験/解答・解説		講義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 別巻「家族看護学」 医学書院
参考書	
備考	

2023年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目 ☐			
	1	2	3	4				
	●							
科目名	健康とスポーツ I				担当講師	岩田知大		
分野	基礎	授業方法	実技	実務経験				
単位数	1 単位	時 間	15 時間	学 年	1 年次	学 期	前期	
概 要	看護師は、健康生活を援助する者として、対象の健康を考えるために、自分自身が健康的な心と身体を有していることが基本となる。そこで、運動と健康の関連を理解し身体を動かすことで、心身の育成を促す。また、援助する者として、高齢者や障害をもつ人の健康と生き生きした生活を支援するための運動や福祉レクリエーションについて、実践を通して学ぶ。							
到達目標	1. 運動と健康の関連を理解し、身体を動かすことで心身の育成を促す。 2. スポーツを通し、チームワークを育む。 3. 健康とストレスの関連を理解し、リラクゼーションを実践することでストレスをコントロールする方法を理解する。							

回	主 題	内 容	学習方法
1	健康理論 運動理論	健康の捉え方と運動の必要性 ヘルスプロモーションと健康づくりのための運動	講義
2	体力測定・分析	体力測定の方法と分析	講義
3	有酸素運動の基礎	身体活動とエネルギー消費	実技
4	有酸素運動の実践	有酸素運動の実践	実技
5	有酸素運動の実践	有酸素運動の実践	実技
6	有酸素運動の実践	有酸素運動の実践	実技
7	有酸素運動の実践	有酸素運動の実践	実技
8	まとめ・終講試験/解答・解説		講義

評価方法	積極性、実技試験、客観試験等を加味し、総合的に評価する。
教科書	講義の中で提示する
参考書	
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
------	-----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	主 題 ・ 内 容	学習方法
1	高齢者と運動	講義
2	福祉レクリエーションの基礎①	講義
3	福祉レクリエーションの基礎②	講義
4	福祉レクリエーションの実践①	実技
5	福祉レクリエーションの実践②	実技
6	福祉レクリエーションの実践③	実技
7	福祉レクリエーションの実践④	実技
8	まとめ・終講試験/解答・解説	講義

評価方法	積極性、実技試験、客観試験等を加味し、総合的に評価する。
教科書	講義の中で提示する
参考書	
備考	